

▼ 京都映像アワード2018 入賞作品上映 <13:00~>



1. 女学生と風船爆弾

監督・広瀬愛奈恵
19分33秒
● 中央大学 FLP 松野良一ゼミ

戦争秘話。戦況が悪化した太平洋戦争末期、日本軍は最終兵器として「風船爆弾」の製造を開始した。そして、その任務を担ったのがまだ10代の女学生たちだった。軍国主義に染まった少女たちは、お国のためにと大量の風船爆弾を製造した。一見荒唐無稽といえる同兵器は太平洋を渡り、米国本土で民間人の親子の命を奪っていた。当時、製造にあたった女学生の記憶をたどり、「平和とは何か」を考える。



2. 10424

監督・今治建城
9分50秒
● 日本大学芸術学部

人間と“彼ら”の付き合いは現在も形を変えながら続いている。今や家族の一員として共存しているからこそ、目を背けがちなこの現状を伝えることは安易ではない。“彼ら”の存在とは何か、私たちの意識に問いかける。



3. 十年 Ten Years Japan

エグゼクティブプロデューサー：是枝裕和
99分

香港で社会現象となったオムニバス映画「十年」を基に、新鋭監督たちが自国の抱える問題点を軸に10年後の社会・人間を描く、日本、タイ、台湾の国際共同プロジェクト。釜山国際映画祭2017での製作発表以来、世界中のメディアから注目され、アピチャップン・ウィーラセタクン(「ブンミおじさんの森」)が監督として参加したタイ版が第71回カンヌ国際映画祭で特別招待作品として選出されるなど、世界から注目されている本プロジェクト。日本版のエグゼクティブプロデューサー・是枝裕和監督の最終ジャッジのもと、脚本のクオリティ、オリジナリティ、将来性を重視して選ばれた5人の新鋭映画監督たちが描く“5つの未来”を通じて、今、日本が抱えている問題、これからの私たちの未来が鮮明に見えてくる。(2018年公開 / 99分 / 配給：フリーストーン / © 2018 "Ten Years Japan" Film Partners)



3-1. PLAN75

監督・早川千絵

高齢化問題を解決するため、75歳以上の高齢者に安楽死を奨励する国の制度“PLAN75”。公務員の伊丹は、貧しい老人たちを相手に“死のプラン”の勧誘に当たっている。一方、出産を間近に控えた妻・佐紀は認知症の母親を抱えて途方に暮れていた。命の価値を揺るがずシステムの中で葛藤する人々を描く問題作。



3-2. いたずら同盟

監督・木下雄介

AIによる道徳教育に管理された国家戦略IT特区の小学校。AIシステム“プロミス”に従いさえすれば、子供達は苦しむことなく日常を過ごすことができた。ある日、用務員の重田が世話をする老馬にプロミスから殺処分判断が下され、反抗する亮太は、同級生の真由と大輔と共にあるいたずらを画策する。



3-3. DATA

監督・津野愛

母の生前のデータが入った“デジタル遺産”を、父に内緒で手に入れた女子高生の舞花。幼馴染の隼人に協力してもらい、データをもとに母の実像を結ぶことに喜びを感じていたが、ある知られざる一面を見つけてしまい……。



3-4. その空気は見えない

監督・藤村明世

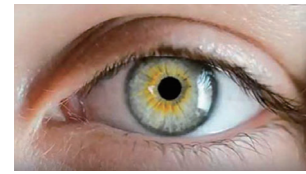
放射能による大気汚染から逃れるために、地下の世界に住む少女・ミズキ。「地上の世界は危険」という母の教えを信じ、地下での暮らしに何の疑問も持たずにいた。ある日、友人のカエデから地上の話聞き、まだ見ぬ世界へ強い憧れを抱くようになり……。



3-5. 美しい国

監督・石川慶

徴兵制が施行された日本。広告代理店の社員・渡邊は、徴兵制の公示キャンペーンを担当している。ある日、ポスターデザインを一新するという防衛省の意向を、ベテランデザイナー・天達に伝えるという大役を先輩社員に振られてしまい……。そこで天達のデザインに込められたある思いを知るようになる。



4. シュレディンガーの猫

監督・大久保映
9分08秒
● 埼玉県立芸術総合高等学校

イメージアート。題の「シュレディンガーの猫」は量子力学の思考実験からきている。17歳の誕生日を独りで迎えて、自分の存在に葛藤する。17年間の箱のなかで自分は生きて来たのか、あるいは死んでいたのか矛盾する二つが内在する思考と精神の世界を辿って展開するイメージストーリーだ。自分が存在しないクラスメートたち。時間の停止の世界と空間、そして闇、自殺した自分、幼い頃の走馬灯、混沌とした世界を作者は見つめる。



5. 金次郎の夏

監督・千葉竜生
16分04秒
● 埼玉県立芸術総合高等学校

ドラマ。一人の少女は不毛な毎日を繰り返して自分に嫌になっている。ある日下校途中でトラックに引かれそうになった一人の男子を助ける。彼は赤信号とも気づかず、黙々英単語を覚えていたのだ。受けを拒むことなく実直、勤勉に生きる彼を少女は“二宮金次郎”と名付ける。遠くから見守るだけだが、彼の一生懸命な生き方に触れて、次第に自分自身がよい方向へ変わり始めていることを予感する。



6. 密告

監督・Camille Samonte, Pam Bareo (フィリピン) 23分

ドゥテルテが政権の座について以来、フィリピンでは、政府による麻薬撲滅キャンペーンのもとで横行する毎夜の人斬りが人々を恐怖におとしめている。このドキュメンタリーは、愛する息子をこの闘いで失ったある家族が経験する苦境を描き、現在進行中のフィリピンにおける政治危機を、ある個人の視点から赤裸々に描いている。(2017年作)



7. 地域医療は、地域が守る。

制作・稚内北星学園大学 地域医療プロジェクト 20分

地域医療の実現を問う社会レポート。地方の病院はどこも外来患者が溢れ、医師不足からくるサービス低下で患者の不満は大きい。原因は「新臨床研修制度」にあるという。若いドクターは大都市病院での研修を働くようになったからだ。宗谷地域の医者数は道内平均の1/2以下。働く医師の過剰な現実を探り、地域医療を守るため動き出した稚内の住民活動を追う。



8. めぐみ、ファイト!

監督・加藤秀樹
19分59秒

闘病記。作者のパートナーは以前病魔に冒され、勤務する会社の人間にも知られまいと闘病を決意した。ビデオカメラを入手し、自毛が生えるまでその密かな闘病日記を記録した。その闘病記がTVFで受賞された。これがきっかけで作者の映像制作は様々な作品を生み出した。その陰にはいつも彼女がいたのだ。しかし9年後完治したと思われた病が再発した。すでに手術は不可能だという。二人は明るく新たに病と向き合って生きよう決意する。



9. いつもの場所で

監督・伊藤奏乃, 岩崎瑠美, 谷本 桜
15分15秒
● 上智大学水島ゼミ

かつて「山谷」は日雇いが溢れ暴動の町だったが、生活保護を受ける高齢者が増え、「福祉の街」となった。カフェで知り合った池田三幸さんの案内で、彼の背越しに見る山谷は、殺伐とした雰囲気のある街ではなかった。むしろ人と人との繋がりが強い温かい街だったのだ。カメラは玉姫公園のブルーシートの中にも入り込むことができた。山谷は身寄りのないホームレスの居場所だ。しかし、再開の波は押し寄せようとしている。



10. 夕凧

監督・今野美伶
15分04秒
● 日本大学芸術学部映画学科

山形県酒田市出身の作者は、隣町の遊佐町に住む祖母の家を訪れ、お盆のための飾り作りを手伝う。そのひとつひとつの盆飾りを丁寧に作る祖母に、家族を思う気持ちを重ねていく。亡くなった家族はお盆になると馬に乗って戻ってくる。そして牛に乗ってゆっくり帰るといふ。地域の風習に込められた美しい想いを記録した作品。

▲終了 (17:45分・予定)

▼ トークセッション <17:45~> ◎テーマ:「映像と記録」



杉原 賢彦
● 映画批評家



佐藤 博昭
● ビデオ作家



山本 博之
● 京都大学東アジア地域研究
准教授



谷元 浩之
● 映画プロデューサー



広瀬 之宏
● 京都国際インディーズ映画祭
代表

トークセッションでは、映画制作者、映画批評家、プロデューサーなどが、上映後、作品の見所やメッセージ性、評価された点などについてディスカッションします。制作者の意図や見る側の意識、作品の社会性や「映画のあるべき姿とは何か、映像の記録性とは何か」など、映画製作に携わる者でないと分からない映画制作の理想と苦悩、使命などが語られます。来場者との質疑応答もあり、実際の制作者と語れるまたとない機会です。短編映画の魅力をぜひ体感してみてください。

▼ 第7回 京都映像アワード授賞式 <18:45~> 審査総評、入賞者発表、授賞式

★懇親会 <19:00~> お時間のある方、お気軽にご参加ください。

* 作品名の前に表記しているNo. は、上映の順番です。 * 上映時間は都合により前後する場合がございます * 上映作品は、都合によりプログラムを変更することがございます。予めご了承ください。